

令和5年度

日中活動支援部会全国大会近畿地区大阪大会

テーマ

「その人らしい暮らしの実現に向けた社会参加」 ～日中活動支援と居住支援の実際的連携～

障害福祉サービスの中で日中活動支援事業（生活介護事業）の目的は、まさに障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の理念が示している「支援を受けられることにより社会参加の機会が確保される」事として、重要な福祉サービスになっています。

一方生活の場面では、家族の高齢化や障害の重度化など個人や家族が抱える複合的課題により、「通院の付き添い」や「入浴」など本来家庭や居住支援事業所で行われてきたことが、日中活動事業所でも必要性が出ています。24時間365日連続した暮らしを理解したうえで考えていくことが求められています。

また、地域社会で展開される様々な経験や体験は、「また、やってみたい」「次はこうしてみたい」という意思の芽生え（意思形成支援）、自身の気持ちの表出（意思表出支援）へと繋がっていきます。

今回の研修会では「その人らしい暮らしの実現に向けた社会参加～日中活動支援と居住支援の実際的連携～」をテーマに、連続した時間の中にある地域社会での暮らしを、本人中心支援を軸に丸ごと捉え、「その人の望む暮らしを実現するために、ほんまに必要な支援を考えよーや!」、そんなメッセージを大阪から全国に発信します。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

【日時】 令和5年12月7日（木）～8日（金）

【方法】 対面集合型

【場所】 ホテルマイステイズ新大阪

〒532-0011 大阪市淀川区西中島6-2-19

【参加費】 会員施設 13,200円（本体12,000円+税1,200円）

一般・その他 15,400円（本体14,000円+税1,400円）

懇親会 8,000円（本体7,273円+税727円）

【定員】 300名

【申込締切】 令和5年11月13日（月）

【申込サイト】 <http://www.mwt-mice.com/events/nicchu-katsudo2023kinki>

主催

公益財団法人日本知的障害者福祉協会 日中活動支援部会
近畿地区知的障害者施設協会
一般社団法人兵庫県知的障害者施設協会

参加申し込みについて

名鉄観光サービス株式会社 神戸支店
担当：西村・磯野・二宮
TEL：078-321-1061 FAX：078-321-5019



プログラム

1日目 (12月7日) 全体会

- 11:30 受付
- 12:30 開会式
- 13:00 行政説明
「障害福祉施策の動向について～令和6年度障害福祉サービス等報酬改定を見据えて～」
厚生労働省（予定）
- 14:20 基調講演
「知的障害者の自立生活と地域インクルージョン」
～障害者権利条約に依拠する日中活動と居住支援～
鈴木 良 教授（同志社大学）
- 16:00 全体講義（鼎談）
「生活介護事業と社会参加」
登壇者 日中活動支援部会 部会長 森下 浩明 氏
日中活動支援部会 副部会長 村上 和子 氏
日中活動支援部会 北海道地区代表委員 大垣 勲男 氏
- 17:20 終了
- 18:00 懇親会（～20:00）

2日目 (12月8日) 分科会

- 09:30 分科会①
「社会生活支援に欠かせない連携とは～居住支援、多職種等との連携について～」
- 分科会②
「意思形成・意思表示が難しい人たちの意思決定支援の推進とサービス提供の実際」
- 分科会③
「多様な社会参加の実践発表～実践事例を通して多様な社会参加を理解しよう～」
- 12:30 終了

分科会①

「社会生活支援に欠かせない連携とは～居住支援、他機関、多職種等との連携について～」

重度化・高齢化している利用者の暮らしを考える上で、日中活動だけでなく住まいの場（障害者支援施設やグループホーム、家庭）や様々な関係機関、地域の方々との連携は欠かせません。その人の望む暮らしの実現のために、日中活動支援事業所が地域で求められている役割・連携等について、事例を通して学びを深める機会とします。

- ▶ **講演** 「その人の望む暮らしのために」 一日中活動事業所が地域で求められている役割と連携—
北摂杉の子会 平野 貴久 氏（大阪府）
- ▶ **実践報告** 「農福連携による共生社会への挑戦！」
萌あおはに 田中 祐介 氏（奈良県）
「地域美化を通じての社会参加と連携」
生活介護事業びーと 窪田 健介 氏（北海道）
- ▶ **パネルディスカッション**
コーディネーター 北摂杉の子会 平野 貴久 氏

分科会②

「意思形成・意思表示が難しい人たちの意思決定支援の推進とサービス提供の実際」

意思の形成・表出が難しい人たちの意思決定支援をどのようにサポートし、そのために私たちは日々何をすべきなのかを考えることはとても大切です。この分科会では、事業所のなかで意思決定支援を推進し、「本人中心支援」を実践していくための講義と実践報告を通じて理解を深めます。また、後半では参加者全員で一緒に考え・学び合える場とします。

- ▶ **講演** 「一人ひとりの物語を共に歩いていくこと」
—西宮市青葉園における意思決定支援実践と本人中心支援展開の状況報告—
西宮社会福祉協議会 清水 明彦 氏（兵庫県）
- ▶ **実践報告** 「PWSの方へのご本人中心支援の実践について」
NPO法人いきいき 木戸 貴之 氏（大阪府）
「ひとりひとりが、その人の人生の主人公」～その人らしい暮らしを地域で支える～
菊鉾会ヒーローズ 松尾 浩久 氏（京都府）
- ▶ **パネルディスカッション**
コーディネーター 障がい者地域共生拠点イマジン 中西 昌哉 氏（京都府）

分科会③

「多様な社会参加の実践発表～実践事例を通して多様な社会参加を理解しよう～」

「社会参加」が大切なことは分かっているけど・・・外出やお出かけと何が違うのか？他の事業所ではどのような取り組みをしているのか？利用者が主体となって地域や住民と繋がり、地域の中での存在（役割や出番）を見出していくために出来ることを考え、利用者の強みや地域の特性を生かした多種多様な社会参加の在り方について、実践発表と意見交換を通じて理解を深めます。

- ▶ **実践報告** 「過疎化地域での繋がりづくり」
和歌山県福祉事業団 多機能型事業所陽 岩上 拓史 氏（和歌山県）
「手の届くところから広がる人と人との繋がり（輪）」
障害福祉サービス事業所瑞穂 尾張 勝久 氏（滋賀県）
「自治会との連携」～施設の社会化に向けての取り組み～
生活介護事業あおぞら 宮嶋 耕太 氏（長崎県）
- ▶ **パネルディスカッション**
コーディネーター 日中活動支援部会副会長 村上 和子 氏